



日本初公開! トウンベリイ採集「ニガクサ」標本 (国立科学博物館 所蔵)

Thunberg 肖像画出典: Wellcome Images

日本の植物が 近代分類学と 出会ったとき

トウンベリイ(ツンベルク)
日本産植物標本データベース
公開記念展示

『日本植物誌 Flora Japonica』(1784年)の
著者C. P.トウンベリイが、日本滞在中に収集した
標本の全貌が今明らかに。

2015年7月25日(土)～8月24日(月) 会期中は無休

国立科学博物館 [東京・上野公園] 地球館1階(レストラン下)南側スペース
〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

協力: ウプサラ大学

開館時間: 午前9時～午後5時 金曜日は午後8時まで *8月8日(土)～16日(日) 午前9時～午後6時。ただし、8月14日(金)は午後8時まで
*入館は閉館時刻の30分前まで

常設展示入館料のみでご覧いただけます。

一般・大学生 620円(団体310円) / 高校生以下および65歳以上無料 *団体は20名以上

ハローダイヤル 03-5777-8600 <http://www.kahaku.go.jp/>

鎖国期の安永4年、オランダ商館付医師として 来日したスウェーデン人博物学者、トウンベリイ。 その足跡と日本の植物研究への功績を紹介。

『日本植物誌 Flora Japonica』(1784年)の著者として知られるスウェーデン人C. P. トウンベリイ[ツンベルク] (1743～1828)は、1775～1776年の日本滞在中に収集した資料を用い、日本の植物を対象に本格的な植物分類学研究を行った初めての西洋人である。私たちの身近にある植物から、トウンベリイによって学名がつけられたものを挙げれば枚挙にいとまがない。その研究材料として用いられた800点以上の日本産植物標本は、現在はスウェーデン ウプサラ大学進化博物館の特別室で良好な状態で保管され、門外不出の貴重コレクションとして扱われている。

国立科学博物館とウプサラ大学は、日本学術振興会/スウェーデン・イノベーション・システム庁の支援による二国間交流事業(平成25～27年度)として、トウンベリイの日本産植物標本の画像データベースを作成した。これにより、世界中から貴重な資料にアクセスすることが可能となった。本展示では画像データベース公開にあわせて、トウンベリイの日本での足跡と日本の植物研究への功績を紹介する。



長崎にやってきたオランダ船(阿蘭陀入船図)



長崎からの江戸参府ルート(1776年)。
トウンベリイは道中で多数の植物を採集した。



オランダ使節一行の江戸参府行列
(ケンペル著『日本誌』より)



トウンベリイ日本産植物コレクション画像データベース
<http://cpthunberg.ebc.uu.se> 7月中旬公開(予定)



ウプサラ大学進化博物館(左)とトウンベリイ標本室(右)



ゼンマイ *Osmunda japonica* Thunb.



クマガイソウ *Cypripedium japonicum* Thunb.

トウンベリイによって新種記載された日本の植物